

## “榎田健児氏セミナー”

日時：2016年1月25日（月）10：00～12：00

会場：新丸ビルコンファレンススクエア Room 901  
（東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル9階）

テーマ：シリコンバレーの本質と日本の底力と課題に迫る：  
アルゴリズム革命から見る Fintech, IoT, Cloud Computing, Biotech

発表者：榎田健児  
（米国スタンフォード大学アジア太平洋研究所リサーチアソシエイト、  
キヤノングローバル戦略研究所 International Research Fellow）

モデレーター：栗原潤（キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹）

言語：日本語

アジェンダ：

- ・講演
- ・質疑応答

### セミナー概要：

シリコンバレーは昨今の破壊的なイノベーションをあらゆる分野で創出している。

金融では既存の金融機関ができなかったサービスをIT技術によって提供する、いわゆるFintechの新サービスが最近後を絶たない。また、全てのモノがインターネットにつながり、そこから大量のデータを取得したり、モノの機能自体を発売後のソフトウェアアップグレードによって一新させて新たなバリューを生み出すIoT (Internet of Things)は、様々なウェアラブル・デバイスから医療・デバイス、そしてテスラモーターズの電気自動車やそのオートパイロット機能、そして現在猛スピードで開発中のグーグルの自動運転自家用車などにも及ぶパラダイムである。クラウドコンピューティングは、人類史上初めて「計算能力とデータ保存」が希少リソースではなく、豊富な資源へと転換させる革命的なアーキテクチャーであり、これを武器に既存の様々な既存業界を脅かすサービスはシリコンバレーから創出されている。

また、バイオテックではiPSを使った研究を始め、様々な医療機関でのニーズを吸い上げて、そこからデバイスや総合的な医療サービス、ならびに遺伝子分析ツール、そしてiPS細胞を使った実験などを含めた活動がシリコンバレーでは行われている。

これら革新的なイノベーションは全て「アルゴリズム革命」が可能にしている。

アルゴリズム革命とは、人間の活動をソフトウェアアルゴリズムでキャプチャすることによって、様々な活動を分解、変換、再構築などさせることができるようになることである。あらゆるタスクは完全自動化、或はアルゴリズムによって人間のタスクの生産性の向上という方向に向かっていく。そしてムーアの法則に従ってコンピューティングのコストが下がるにつれて、アルゴリズムによって変貌を遂げる経済活動の領域は広まっている。

今回のセミナーでは、これらの状況がどうしてこうなったのかを含め、シリコンバレー発IT革命の本質と、それが見えた上での日本の底力と課題に迫る。

梶田健児氏の略歴等

<http://www.kenjikushida.com/>

所属：

スタンフォード大学アジア太平洋研究所日本研究プログラム リサーチアソシエート

Stanford Silicon Valley - New Japan Project プロジェクトリーダー  
キャノングローバル戦略研究所 International Research Fellow

学歴：

2001年6月 スタンフォード大学：経済学部、東アジア研究学部卒業（学士）

2003年6月 スタンフォード大学：東アジア研究部、修士課程修了（修士）

2010年8月 カリフォルニア大学バークレー：政治学部、博士課程修了（博士）

職歴・著書：

2010年9月 スタンフォード大学アジア太平洋研究所ポスドクトラルフェロー（～2011年7月）

2011年8月 スタンフォード大学アジア太平洋研究所日本研究プログラム  
リサーチアソシエート

Stanford Silicon Valley - New JapanProject プロジェクトリーダー

2016年1月 キャノングローバル戦略研究所 International Research  
Fellow

東京のインターナショナルスクールを経てスタンフォード大学で経済学と東アジア研究を専攻、カリフォルニア大学バークレーで政治学博士を修得後、現職に就く。

情報通信やクラウド、政治経済分析を中心に研究。

日本向けの一般書は『バイカルチャーと日本人—英語力プラス $\alpha$ を探る』（中公新書ラクレ）、『インターナショナルスクールの世界』（扶桑社、Kindle電子書籍）など。